

この稻は十數年前に、奥州白河領に鶴のくはへ来ておとし、稻穂なり、これをうゑて種とりて、こゝにもつたはりしを、淺草關氏の園中にうゑてみのりしなり、穂の長さ九寸ばかり、粟粒凡八十五六七粒の長さ三分五厘、廣さ一分二厘ほどあり、或人のもち米なりといひしほどに、やがてねりて試みしが、至りて淡味なり、これは朝鮮の種なるべしといひあへり、
平田篤胤曰、藁よはくて用に堪へざれば異國の産なる事明かなりといへり、西教寺曰、鶴は朝鮮よりわたると聞き及べり、さてかくばかり大粒なる米をみし事はあらず、もしは慈恩傳にみえし大人米なるべきかといへり、按ずるに、慈恩傳にも、大人米は烏豆より大なりとみえたれば、いかゞあらん、高田與清曰、駿河國に米宮といふあり、いにしへ異國より渡りしとて、烏喰豆よりも大なる米を神體とせり、これ大人米なるべしといへり、

〔大唐西域記〕八、摩揭陀國周五千餘里、城少居人、邑多編戶、地沃壤、滋稼穡、有異稻種、其粒麤大、香味殊越、光色特甚、彼俗謂之供大人米、

〔續高僧傳〕四上、唐京師大慈恩寺釋玄奘傳一

山城之北可五里許、至曷羅闍娑利四城、唐言新王舍也、餘傳所稱者是矣、又北三十餘里、至那爛陀寺、唐言施無厭也、瞻部洲中寺之最者、勿高此矣、略中、并歷諸國、風聲久遠、將造其寺、衆差大德四十

人、至莊迎宿、莊即目連之本村也、明日食後、僧二百餘、俗人千餘、擊輿、幢蓋、香花來迎、引入都會、與衆相慰問、訖唱令住、寺、略中、寺素立法通三藏者、員置十人、由來闕一、以并風問、便處其位、日給上饌、二十盤、大人米一升、檳榔、豆蔻、龍腦、香乳、酥、蜜等、淨人四婆羅、一行乘象、輿三十人從、大人米者、秬米也、大如烏豆、飯香百步、惟此國有、

芳米

〔和爾雅〕六穀、芳米カシシコ

〔食物知新〕一、香稻米山公